

日本とタイの間で揺れ動いた人生

いま激動の歴史の目撃者として語る

ドキュメンタリー映画

# タイに生きて

報道写真家

## 瀬戸正夫の人生

バンコク日本人物語 第一部

制作報告会

2024

8.31 土

10:00 ~

タイ国日本人会館  
主催：タイを知る会

<日本-タイ/2025 (完成予定) / 70分/日本-タイ/日本語・タイ語 (日本語字幕) / HD/Color> ◇監督・撮影：野中章弘、直井里予 撮影協力：大湊理沙 編集：直井里予  
◇翻訳：吉村千恵 ◇制作協力：五十嵐勉、蓮藤環、玉柳蘭、小泉順子、櫻田智恵、佐治史、高岡正信、平松秀樹、吉村千恵 ◇チラシ制作：川島淳子 ◇HP制作：鎌田京子 ◇宣伝協力：チェストパス  
◇協力：朝日新聞、アジアプレス・インターナショナル、シーカー・アジア財団、タイ国日本人会、タイを知る会、タイフィルムファンデーション、早稲田大学ジャーナリズム研究所  
◇製作助成：文部科学省科学研究費助成事業 (基盤研究C)、京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究拠点「東南アジア研究の国際共同研究拠点」(IPCR) 研究費、国際ファッション専門職大学個人研究費

ドキュメンタリー映画

# タイに生きて

報道写真家・瀬戸正夫の人生

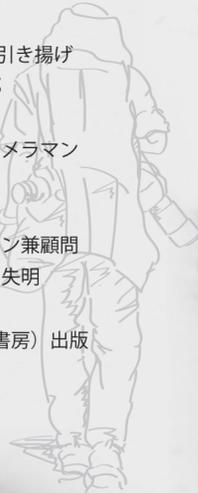
バンコク日本人物語 第一部

1931年（昭和6年）、タイ南部プーケットで日本人の父とタイ人の母の間に生まれた瀬戸正夫。8歳の時に日本人の義母と共にバンコクへ。「盤谷日本尋常小学校」で学び、敗戦後は難民キャンプでの抑留生活などを体験。父は戦犯容疑で逮捕され、瀬戸をタイに残したまま日本に帰国。出生届が出されていないため、日本政府は瀬戸を日本人としては認めず、32歳にタイ国籍を取得するまで無国籍者として生きることを余儀なくされた。戦後はバンコクでタイ語・日本語教師や水泳コーチなどで生計を立てながら、カメラマンとしても活躍。戦前から現在に至るまで、複雑に織りなされた日タイの歴史の目撃者、語り部としての瀬戸正夫のライフヒストリー。



## 瀬戸正夫（タイ名 ヴィワツ・シータラクーン）

- 1931年（昭和6年）5月 ▶ プーケット島生まれ
- 1935年（昭和10年） ▶ ソンクラ（タイ南部）へ移転
- 1939年（昭和14年）春 ▶ 「盤谷日本尋常小学校」入学（全校生27名）
- 1945年（昭和20年）3月 ▶ 卒業
- 同年10月初旬 ▶ バンブアトーン（ノンタブリー県・バンコクから北へ約40キロ）第2キャンプに抑留
- 1946年（昭和21年）6月 ▶ キャンプから約3300人の邦人が日本へ引き揚げ
- 同年10月 ▶ キャンプから解放され、バンコクへ帰郷
- 1953年 ▶ 日本人会のボランティア・カメラマン
- 1960年11月 ▶ 日本人学校（現・タイ日協会学校）のカメラマン
- 同年2月 ▶ プーケットで初めて実母と対面
- 1963年11月 ▶ タイ国籍を取得
- 1967年 ▶ 朝日新聞バンコク支局の助手兼カメラマン兼顧問
- 1971年4月 ▶ スラータニーで取材中、撃たれて右目を失明
- 1973年6月 ▶ ユピンさんと結婚
- 1995年10月 ▶ 自伝『父と日本にすてられて』（かのう書房）出版
- 1997年 ▶ シーカー・アジア財団・カメラマン
- 現在 ▶ バンコク在住



野中章弘：1953年、兵庫県生まれ。アジアプレス・インターナショナル代表。早稲田大学名誉教授。1980年代は、バンコクを拠点にインドシナ難民やミャンマー内戦、インドネシア民主化運動、東ティモール独立闘争、アフガン戦争などアジアの紛争、戦争などを取材。その後、東京大学、早稲田大学などでジャーナリスト養成教育に注力。編著に『ジャーナリズムの条件4 ジャーナリズムの可能性』（岩波書店）など。



直井里予：1970年、茨城県生まれ。国際ファッション専門職大学・専任講師／京都大学東南アジア地域研究研究所・連携講師／映像作家。1998年からアジアプレス・インターナショナルに参加し、2000年代は、タイを拠点に北タイのHIV陽性者やミャンマー難民のドキュメンタリー映画を制作。2011年から京都在住。主な作品に『アンナの道』（釜山国際映画祭2009）、著書に『病縁の映像地域研究』（京都大学学術出版会2019）など。



詳細 / Web